



木木

千葉県TEACCHプログラム研究会
2015年12月20日(日) 第81号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL：043-227-8557



「星が丘寮の取り組み」

～「生活支援」「日中活動支援」「余暇支援」の中で、
どのように構造化のアイディアが生かされているか～

社会福祉法人侑愛会 おしまコロニー 星が丘寮
寮長 中野 伊知郎 氏

今回のセミナーは、北海道で自閉症の方の支援をされています「おしまコロニー星が丘寮」の寮長 中野伊知郎氏に、お話をいただきました。

セミナーの前半では、中野氏から「おしまコロニー星が丘寮の概要」や「自閉症の人への支援について、法人のスタッフ内で共通理解をすることの大切さ」などのお話をありました。自閉症の人への支援には、「発想の転換」が必要であるとのお話で、この内容は千葉TEACCH研のセミナーで佐々木正美先生他、毎回、講師の先生からお話をいただく「自閉症を治す」という考え方ではなく、「自閉症の人が自閉症としてありのままに生きていく」ための支援が必要であるという考えに基づくもので、「自閉症の人への支援」の方向性について再確認できるセミナーとなりました。また、教育現場や福祉現場のスタッフの間でよく聞かれる言葉で、

「彼らは、言葉をかけなければできます。」という点についても、

「言葉をかけなければできる」 → 「言葉をかけなければできない」
→「人が介入しなければできない」 → 「自立ではない」

ということであると話されました。この点についても千葉TEACCH研のセミナーで講師の方が話をされている部分で、改めて、教育及び福祉の現場に携わる職員にとって、胸に刻まなければならないお話をあったと思います。

セミナーの後半では、おしまコロニー星が丘寮での実際の具体的支援方法や利用者の方の生活の様子について動画を交えてのお話をいただきました。星が丘寮の利用者さんは障害区分としては決して軽度ではなく、区分5~6の方が多いのですが、きめ細やかな配慮をすることによって落ち着いた生活を過ごすことができるというお話をしました。具体的な支援方法として、一人一人に合わせた「スケジュール」や「物理的構造化」、「環境の整理」や「個々のコミュニケーショングッズ」について、星が丘寮で実践されている実践を紹介していただきました。加えて、グループホームで生活されている利用者の方が、実際にレストランを利用するため、「事前にどのような取組をしたのか」「当日、利用者の方はどのようにレストランを利用したのか」など、具体的な手立てや実践内容について動画で紹介いただきました。

まとめとして、

「利用者一人一人の生活スタイルを考えること」
「一人でできたという達成感、自己肯定感を高めること」
「自己選択や自己決定ができるように進めること」
「社会参加の視点を考慮して、色々な経験を積んでいけるようにすること」

が支援をする上で、ポイントになるということでした。

おしまコロニー星が丘寮の支援の目標は「共生社会の現実」というお話がありましたが、この点については、まさしく教育現場で話題となっている「インクルーシブ教育システムの構築」「共生社会」という点と重なる部分があり、教育現場と福祉現場の共通の問題点であることが再認識できました。

今後、真摯に向き合うべき問題点として提起されたセミナーとなりました。

(文責:山中)

安倍陽子先生の「ティータイム」



今年も師走に入り残すところあと僅か、クリスマスや年末を迎えようとしています。年々温暖化の影響で今年は季節外れの温かい冬ですが、皆さま体調を崩されていませんか？



11月は、おしまコロニーの星が丘寮の中野寮長をお迎えして、入所施設での取り組みについて伺いました。「入所施設は、24時間365日のアセスメントを基に個別支援が展開でき、暮らし全般をトータルで支えるシステムを構築できる」と話されていましたが、その意味は深く本当に素晴らしい！従来の居住形態を“本舎”と呼び、平成23年に新たな居住形態としてより一人ひとりの生活スタイルに合わせた必要な支援を行うために、

“小舎”（5名の生活寮で3年をめどとし、本舎のスタッフが全員関わっている）を作られました。小舎での支援と共に、この11月にオープンしたグループホーム6名の生活の様子も見せて下さいました。このホームは施設内にあるのですが、今後街中に作る計画もあるとのこと。従来の入所施設のイメージを根本から変えるもので、重度域の自閉症の方たちの地域生活をいかに支えるか、地域に働きかけて支援システムの構築を図る一方で、その人に合った暮らしとは何か？意味のある暮らしとは何か？を考え優先されているお話を聞けました。

ここからは中野寮長のお話を伺いながら、個人的に思い出されたおしまのことを少し。1982年に佐々木正美先生と共におしまコロニーのスタッフがノースカロライナのTEACCH部を訪れ、日本では最も早い段階からTEACCHプログラムの導入を図り、現在に繋がっています。その時のお一人が以前の星が丘寮の寮長で、その後川崎医療福祉大学で教鞭をとっていた寺尾孝士先生です。先生には、以前千葉TEACCH研でもご講演いただきましたが、現在は札幌市でご活躍されています。もうお一人は、ある時期は幼児の通園施設長でいらした村川哲郎先生、おしまを退職された後は、小樽市の通園施設で家族や職員をご指導されていましたが、残念なことに他界されました。両先生がおしまにいらした時に、何回か施設や通園に同わせていただいたことは私のかけがえのない思い出となっています。以前寺尾先生を中心に、北海道知的障がい福祉協会主催の特別トレーニングセミナー（TEACCHモデルに学ぶ）が北海道の施設職員を対象に行われていました。北海道の自閉症の人たちへの支援や連携は、寺尾先生や村川先生を中心とするスタッフによるセミナーやおしまコロニーの実践により格段に進み、現在に至っています。中野寮長は、第二世代と言っても良いかもしれませんね。

また、もう一つの大事な思い出は、私と同じ朝日新聞厚生文化事業団の奨学生として、TEACCH部で研修を受け、帰国後朝日の本の執筆やトレーナーの仕事をご一緒していた鈴木伸五さん、悲しいことに彼は30台の若さで旅立っていました。私が留学を終えた年に新しい留学生である鈴木さんと現地ノースカロライナでお会いし、鈴木さんは、私の車を引き継いで下さいました。漫画を描くのが上手で、玩具を作るのもアイデアが豊富な方でした。彼もおしまを支えていた一人であり、彼の志を思うと本当に胸が熱く、痛くなります。

さて今年度の最終講演は、“当事者の方からのメッセージ”で、片岡聰氏をお迎えしています。支援に携わる方だけではなく、すべての方に聞いていただきたいと思います。

皆さま、良いお年をお迎えください！！ また来年2月にお目にかかりましょう！

第6回連続セミナー

「平成27年度 実践報告会」 発表：学校職員・保護者・福祉施設職員他
日時 平成28年2月28日（日） 13:30-16:30（受付開始13:00）
場所 きぼーる13階 会議室1・2・3

※今回も、皆様の参考になる実践報告がたくさん発表されます。

（編集後記）中野先生のお話にありましたように、福祉の現場ではグループホーム事業が増え、自閉症の人が「地域で共に暮らす」ことが増えてきています。また、教育現場でも「インクルーシブ教育システムの構築」「共生社会」が話題となっています。全ての人が、地域で当たり前に生活できる世の中になることを願ってやみません。中野先生のお話を聞きして、福祉や教育の現場に、より一層の千葉TEACCH研の普及活動をしていかなくては・・・と、改めて思いました。（山中）